

教科目名 振動学 (Vibration Analysis)

学科名・学年 : 都市システム工学科 5 年 (教育プログラム 第 2 学年 ○科目)

単位数など : 選択 1 単位 (後期 1 コマ, 学習保証時間 22.5 時間)

担当教員 : 園田敏矢

授業の概要			
<p>構造物に荷重を載せた時の断面力(軸力, せん断力, 曲げモーメント), 変位を構造力学で学んできた. この場合は静かに荷重を載せた場合であり, 同じ大きさの荷重でも動的(動かす)荷重の場合は異なる. 共振という現象を知っていると思うが, まさにこの現象が動的現象である. 地震により構造物が大きくゆれ, 大きな力や変位を受け破壊に至ることがある. この地震時の解析を行うに必要な構造物の振動特性(固有振動数, 振動モード)を理論的に求める. 運動方程式を導き, その解を求める. できるだけ日常の現象を説明しながら講義を進めます.</p>			
達成目標と評価方法		大分高専目標(B2), JABEE 目標(d1①)(g)	
<p>(1) 自由度, 固有周期, 減衰, 周波数伝達関数などの振動学の基礎的事項を十分に理解することができる. (定期試験) (2) 1 自由度系, 2 自由度系の振動方程式を立てて解くことができる. (定期試験) (3) 振動形解析法を理解することができる. (定期試験)</p>			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	1. 振動序説	○振動学の基礎的語句を学ぶ.	【理解の度合い】
2	(1) 自由度・単弦振動	○振動方程式の考え方をニュートンの運動方程式から説明し, いくつかの演習を行う.	
3	(2) ニュートンの運動方程式		
4	(3) 円板の慣性モーメント	○振動方程式のたてかたを学ぶ. ○ばねの質量を考慮した固有周期を求める.	
5	(4) 定滑車・動滑車の運動方程式		
6	2. 1 自由度系	○1 自由度系の粘性減衰振動方程式を解く. ○1 自由度系の正弦波外力と起振機による強制振動の解を求める.	
7	(1) ダランベールの原理		
8	(2) 自由振動の方程式とその解		【試験の点数】 点
9	(3) 自由振動のエネルギー		【理解の度合い】
10	(4) ばねの質量の影響		
11	(5) 粘性減衰が働く系の振動方程式		
12	(6) 減衰振動方程式の解		
13	(7) 正弦波外力による強制振動		
14	(8) 起振機による強制振動		
15	(7) 正弦波外力による強制振動		
16	(8) 起振機による強制振動		
8	後期中間試験		【試験の点数】 点
9	後期中間試験の解答と解説	○自身の理解力を分析し, わからなかった部分を理解する.	【総合達成度】
10	3. 2 自由度系	○2 自由度系の振動方程式のたてかたとその解法を学ぶ.	
11	(1) 振動方程式の作成および解	○ロッキング振動の振動方程式のたてかたとその解法を学ぶ.	
12	(2) 基準振動の直交性	○1 次, 2 次の振動モードを使って 2 自由度系の応答を求める.	
13	(3) ロッキング振動		
14	(4) ラグランジュの運動方程式		
15	(5) 振動形解析法		
16	(6) 正弦波外力による強制振動		【試験の点数】 点
17	(7) 変位による強制振動		
履修上の注意	振動学は基本的には力のつり合いを使って求める事ができる. 基本的事項の説明を聞いて, 例題では学生自身が解くことが大切である.		【総合評価】 点
教科書	小坪清真, 「入門建設振動学」, 森北出版.		
参考図書	平井一男・水田洋司, 「耐震工学入門」, 森北出版.		
関連科目	鋼構造学, プロジェクト演習Ⅲ(専攻科)		
総合評価	達成目標の(1)~(3)について, 2 回の試験で評価する. 総合評価=2 回の定期試験の平均. 総合評価が 60 点以上を合格とする. 再試験は, 総合評価が 60 点に満たない者に対して実施する.		